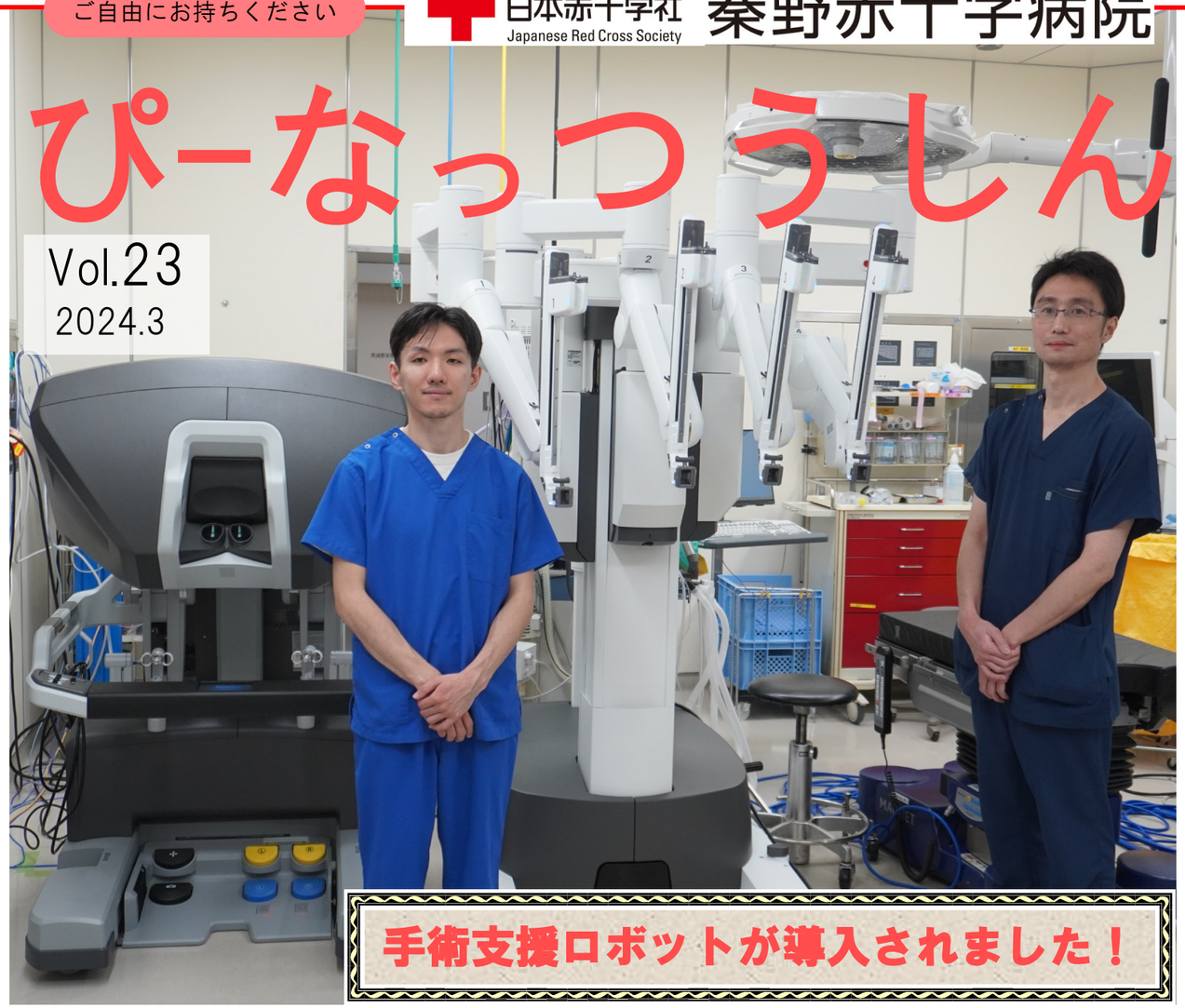
ご自由にお持ちください

日本赤十字社 Japanese Red Cross Society 秦野赤十字病院

ぴーなっつうしん

Vol.23
2024.3



手術支援ロボットが導入されました！

知っておきたい医療の知識

「手術支援ロボットを導入しました」

「能登半島地震被災地へ医療救護班、病院支援看護師を派遣 」

「退任のご挨拶　～田中克明院長～」

秦野市の特産品「ピーナッツ」の花言葉は、「仲良し・楽しみ」。生活に役立つ情報や当院の魅力などを提供し、地域の皆さんと病院とのコミュニケーションツールになる広報誌を目指します。

ＱＲコードを読み取ると、当院ホームページへアクセスでき、最新のお知らせをご確認いただけます。

当院の小児科及び脳神経外科は、2024年4月より医師が増員となります。
今まで以上に手厚い体制となりますので、気になる症状などありましたら
いつでもお気軽にご相談ください。

能登半島地震被災地へ医療救護班、病院支援看護師を派遣

令和6年1月1日に発生した能登地方を震源とする地震は、石川県を中心に甚大な被害をもたらしました。日本赤十字社は、発災直後から医療救護班の派遣や救援物資の配布など被災者への支援を続けています。

当院は、日赤神奈川県支部からの要請を受け、石川県珠洲市へ医療救護班3班（延べ23名）を派遣。また、日赤本社を通じて厚生労働省からの要請に基づき、市立輪島病院へ看護師2名を派遣しました。（令和6年2月末現在）

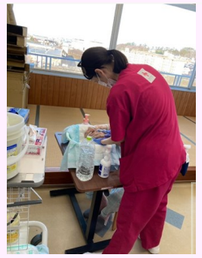
発災からの経過とともに被災地の医療ニーズが変化する中、救護班は巡回診療や救護所での診療、避難所アセスメント等の活動に従事しました。第2班で派遣された看護師は、避難所でのこころのケア活動も行いました。

派遣された救護班要員からは、「今回の経験を院内全体で情報共有し、次につなげたい。被災地に必要な医療を届けることが大切である」と今後の抱負を述べました。

◀ 避難所で
リラクゼーションを
行う看護師

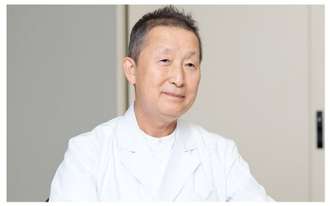
避難所で巡回診療を
行う医師▶

市立輪島病院で
▼ 患者さんに手浴を行う看護師



▲ 現地への到達も
容易ではありませんでした

退任のご挨拶



秦野赤十字病院　院長
たなか　　かつあき
田中　克明

<資格・所属学会>

日本内科学会認定医・指導医
日本肝臓学会専門医・指導医
日本消化器病学会専門医・指導医
日本消化器病学会　関東支部会評議員
難病指定医
日本ラクトフェリン学会理事
神奈川県難病対策協議会
特定疾患審査会委員
神奈川県難病対策協議会
肝臓疾患対策部会委員長
神奈川県難病対策協議会委員長
独立行政法人医薬品医療機器
総合機構専門委員

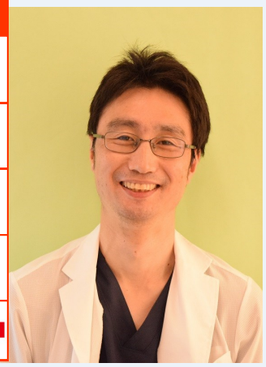
秦野赤十字病院にお掛かりの患者様、人間ドックをご利用いただいている皆様方、および連携登録医療機関の関係者の方々におかれましては、日頃よりひとかたならぬご尽力を賜りまして、深く感謝申し上げます。2017年1月に小職が着任して7年が経過し、本年3月末で退任致しますので一言ご挨拶申し上げます。当院は旧来のいわゆる「お産の日赤」から「救急の日赤」にリモデリングし、産婦人科と血液内科以外の診療科が全て出揃うとともに、新たに消化器病センター、脳卒中センター、救急科、皮膚科、放射線科が新設されました。病院機能もより急性期医療にシフトし、内視鏡治療、腹腔鏡手術、血管内治療が充実するようになりました。その集大成として内視鏡手術支援ロボットを導入し、前立腺がん、直腸がんを対象に患者さんに優しいロボット手術を本格稼働させる予定です。

病気の早期発見には普段からのチェックが大切です。地域の皆さんが病気にならないよう当院でも健診をさらに充実させていきます。また、一時期に比べて診療科も充実して、一通りの病気・ケガは診られるようになっています。隣接する伊勢原市の大学病院は重篤な患者さんや高度医療を必要とする患者さんの治療が中心となりますので、どの病院に行くか迷ったら、まずは当院においでください。病状の程度と緊急度に応じ、医療に最適な病院を紹介しています。今後も地域の皆さんのために適切な医療を実践していきます。4月以降の新しい執行部も宜しくお願い申し上げて、退任の挨拶に代えさせていただきます。

知っておきたい医療の知識

手術支援ロボットを導入しました

今月号の 秦野日赤人



第二外科部長

かたやま　ゆうすけ
片山　雄介

〈資格・所属学会〉

日本外科学会専門医
日本消化器外科学会専門医・指導医
日本消化器がん治療認定医
日本内視鏡外科学会技術認定医
（消化器・大腸）
医学博士

「サージョンコンソール」

執刀医がロボットの操作を行う機器です。
手術映像を見ながら、コントローラーを操作します。

「ペイシェントカート」

複数のアームと高画質カメラを装備し、患者さんに接続する機器です。
執刀医がサージョンコンソールで操作した動作がアームに伝わります。

「ビジョンカート」

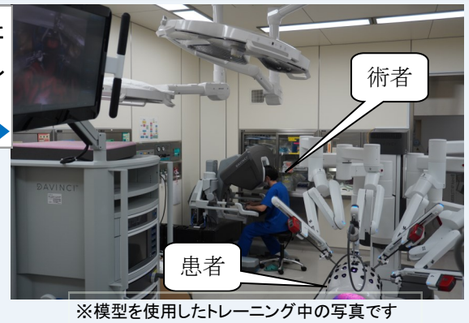
画像の収集・処理を行う機器です。
モニターには手術中の映像が映し出され、手術スタッフもリアルタイムで同じ映像が共有されます。

～～外科ではどのような疾患が対象となりますか？～～

今回当院で導入した手術支援ロボットは、日本で2009年に薬事承認を受け、2018年に外科領域で肺がん、食道がん、胃がん、直腸がんが保険収載されました。現在も徐々に適応は拡大しており、結腸がんや膵臓がんも保険収載され、ほぼ全ての領域で保険診療下にロボット手術が行えるようになりました。

当科ではまず直腸がんからロボット手術を導入いたします。ロボットは人間の手首よりもはるかに曲がる器具（鉗子）による繊細な手術が最大の特徴であり、狭い骨盤内で行う直腸がんの手術に適しているからです。これにより、排尿や性機能、排便などに必要な神経や筋肉を温存しながら、より腫瘍をきれいに摘出することが可能となり、患者さんの治療成績の向上が期待されます。

術中に、術者は離れた場所でロボットを操作して、手術をします。



※模型を使用したトレーニング中の写真です

～～ロボットの導入により、外科はどのように変わりますか？～～

これからは当科でもロボット手術と従来の腹腔鏡手術の両方が施行可能となり、より先進的な医療の提供が行えるようになります。それぞれ患者さんの病状に応じて使い分けていくことになります。先に申し上げたように、ロボット手術は曲がる鉗子により狭い骨盤内の操作に適しており、さらに手ブレ防止機能や3Dで見える高性能なカメラでより繊細な手術が可能となります。

一方で当科ではまだ県内でも行っている施設が少ない「経肛門直腸間膜切除術（TaTME）」も取り入れております。こちらは通常の腹腔からの操作に加え、肛門からも腹腔鏡と鉗子を挿入し手術を行う術式で、より肛門の筋肉を繊細に観察することができ、永久人工肛門を作らず、できるだけ肛門を温存することが可能となります。今後もロボットの長所と腹腔鏡の長所を考え、患者さんの病状に応じて適切な術式を行っていきたいと考えます。

～～読者へのメッセージをお願いします～～

当院でもロボット手術が導入され、より治療の選択の幅が広がりました。当科では進行したがんであっても、腫瘍をきれいにとりながら、できるだけ肛門など患者さんの生活に関わる機能を温存した手術を行ってきました。なにかお困りの際は気軽に当科にご相談ください。

手術支援ロボットとは？

患者様の負担が少ない腹腔鏡手術と同じようにいくつかの小さな切開部を作り、医師の操作に従って内視鏡・メス・鉗子等を動かして手術を行うロボットです。

今月号の 秦野日赤人

泌尿器科副部長

かさはら　りょう
笠原　亮

〈資格・所属学会〉

日本泌尿器科学会認定泌尿器科専門医
日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会
泌尿器腹腔鏡技術認定医
身体障害者福祉法第15条指定医
（ぼうこう又は直腸機能障害）
緩和ケア研修会終了（横浜市立大学付属病院）
Urolift Training Certification

～～泌尿器科ではどのような疾患が対象となりますか？～～

前立腺癌に対する前立腺全摘除術、膀胱癌に対する膀胱全摘除術、腎腫瘍に対する腎部分切除術などが泌尿器科領域で多く実施されているロボット支援手術になります。特に、ロボット支援下前立腺全摘除術は、すべての診療科の術式で1番最初に承認された（保険収載2012年）術式であり、国内で最も歴史のある術式になります。

当院でも腹腔鏡下前立腺全摘除術は例年40-50例実施しており、まずはこれらをロボット支援手術に切り替える予定です。その後順次、膀胱全摘、腎部分切除等の術式も実施して参ります。

～～ロボットの導入により、泌尿器科はどのように変わりますか？～～

当科では年間70-80例の泌尿器癌手術のほとんどを腹腔鏡で実施してきました。制癌性、安全性ともに良好でしたが、今回のシステム導入で更なる高みに上がると考えております。

従来の腹腔鏡手術で使用する器械は、関節がなく先端だけを曲げることは出来ませんでしたが、ロボットアームには複数の関節があり、術者の理想とする向きで剥離や切開操作を行うことが出来るため、神経や筋肉を綺麗に温存したり出血をすばやく局所制御したりすることが可能になります。結果として、具体例ですが、前立腺癌術後の禁制回復を早めたり、必要に応じて性機能温存を試みたりすることが出来るようになります。

また、ロボットには4つのアームがあり、単純計算で2人分の作業を行うことが出来るため、手術実施に必要な人員が1人減るため人員に余裕が生まれ、手術中の急患応需もより柔軟に対応可能となります。

～～読者へのメッセージをお願いします～～

秦野赤十字病院泌尿器科は、神奈川県西部における泌尿器癌診療における中核施設の一つであり、最新の医療機器の整備は患者さんに対する責務として考えております。

当科は数年前から手術支援ロボットの導入に向けて院内を主導して参り、この度念願の導入となりました。しかしながら、癌は早期発見しないと手術のみで根治することが出来ません。

市民の皆様におかれましては、前立腺癌検診や当院の人間ドックなどの積極的な受診をおすすめします。残念ながら異常値が検出されてしまった場合は、躊躇わずに泌尿器科外来を受診下さい。当科で責任もって治療致します。